



チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第86回「日経平均株価の特徴」

9月から一段と日経平均株価が上昇しています。
今週は、日経平均株価の特徴や構成銘柄についてお伝えします。

～日経平均株価とは～

日経平均株価は、NHKニュースなどで毎日報道されている株価指数であり、皆様もよくご存知だと思いますが、この株価指数の中身についてはあまり知られていないのではないのでしょうか。そこで、まず日経平均株価についてご説明いたします。

日経平均株価とは、東京証券取引所プライム市場に上場している銘柄のうち、日本経済新聞社が株式市場を代表する銘柄として選定した225銘柄を対象とした修正平均株価です。この指数は、東京証券取引所が再開された1949年5月16日から算出されています。

算出方法は、構成銘柄の株価を合算し銘柄数で割る株価平均型の株価指数です。この算出方法のため、日経平均株価は株価の高い銘柄（値高株）の動きに左右されやすい株価指数となっています。

この特徴を如実に示すものがあります。それは売買単価の動きです。

裏面グラフ1をご覧ください。このグラフは緑色の折れ線グラフが日経平均株価の週末値を、赤色の折れ線グラフは東証プライム市場売買単価（プライム市場での売買単価）の週末値を示しています。期間は23年1月からです。このグラフを見ると、緑色の日経平均株価の動きに合わせるように赤色の売買単価が上がったり下がったりしているのが分かります。具体的には2023年10月から2024年3月にかけて、あるいは2025年4月から足元10月にかけて日経平均株価（緑色）が上昇する局面で、売買単価（赤色）が上昇しています。一方、2024年7月から2025年4月にかけて日経平均株価が下落している局面では、売買単価が下がっています。このように日経平均株価は構成銘柄の修正平均株価で算出されるため、上昇する時には売買単価が上がり、下落する時には売買単価が下がります。また、売買単価の動きを見ることで、日経平均株価の動きの強さが大きいのか小さいのかを知ることが出来る場合もあります。このグラフ1の下落局面（2024年7月～2025年4月）では、2024年8月以降日経平均株価は横ばいから緩やかな上昇となっていました。売買単価は右肩下がりとなっていました。日経平均株価の上昇力は弱く4月初旬に急落しました。

～銘柄選択のヒント～

上記で確認したように日経平均株価が上昇する時は、株価の高い銘柄が上がりやすく、逆に日経平均が下落する時は、株価の高い銘柄が下がりやすくなる場合が多いので、日経平均株価が下がっているときに高い株価の銘柄を買付け、日経平均株価が上昇してきた時には売る投資を行うことは理にかなった投資であると考えます。日本経済がコストプッシュ型（原材料上昇）インフレから高市氏の標榜するデマンドプル型（需要拡大による）インフレに移行すれば、海外からの投資資金が流入し、日経平均株価は基本的に右肩上がりの上昇相場が続くでしょう。今後の市場動向を踏まえれば、株価の高い日経平均株価に採用されている銘柄に投資、保有することは有効な投資方法の一つであると考えます。

